

	予定日	テーマ	到達目標・重要なキーワード
1	8月25日	水の大切さについて	水はすごい物質であり、全ての生きものの基本であることを認識する。水のエネルギー価値についても考える。
2	9月8日	上水道と下水道	上下水道の仕組みを概観し、し尿を通した食べ物のリサイクルができなくなっている問題点について考える。
3	9月22日	食べ物の大切さについて	飽食時代、食べ物のありがたさが無いがしろにされている現状について考える。
4	10月6日	食べ物の流通・廃棄	食べ物中に含まれる窒素リンの循環、食料自給の状況の現状と問題点について考える。
5	10月27日	瀬戸内海の変化	赤潮が出ていた時代の瀬戸内海が最近どうなっているか、瀬戸内海の水質や水産業の50年間の変化について考える。
6	11月10日	森、川、海のつながり	榎野川での取り組みを例にして、森川海のつながりの重要性、生きもののつながりの重要性について考える。
7	11月24日	世界とのつながり	東南アジアの原生林保護などとの関係について考え、食料自給の重要性について考える。
8	12月8日	農業を守る	農業の多面的な機能とTPPの動きについて触れ、農業を守るためにはどうしたらいいのか議論する。
9	12月22日	水源を守る	小野湖の例にとって、水源を守るためにはどうしたらいいのか議論する。

#### 注意点

19:00~20:30 の1時間半のうち、前半は講師からの問題提起、後半は参加者間の討論を基本とします。

次回までの間に、感想をまとめてもらい、調べたこと、自分の考えなどをメールで送っていただければ、ありがたいです。そのなかで、傾聴すべき議論があれば次回に簡単に紹介していただくことにします。

8回目、9回目は討議に重点を置いた内容にする予定です。

参加者を含め有意義な理論がまとまれば、きちんとした成果報告として、ポータルサイトに残します。

資料は毎回講師が用意する。資料代は会場日を含め、300円を毎回納めていただきます。

駐車スペースがないので、できるだけ、自転車等でおいで下さい。

	予定日	テーマ	考える素材と課題
1	8月18日	防災の新しい課題	最新の地震学の成果を学び、「天地動乱の時代」(石橋克彦氏)に入った日本列島の上での暮らし方を被災地の実態と宇部市の現実に引きつけて考える。
2	9月15日	ライフラインの復旧復興のために	農漁村と都市、道路港湾、建築、設備などインフラの復旧復興のあり方を地域と課題を絞ることによって探る。また特長的な取り組みを整理する。
3	10月20日	災害とボランティア活動	復旧復興に向かってボランティア活動の果たす役割について考える。いわき市と宇部市の結びつき、各グループ個人の実際の活動の報告を受けて考える。
4	11月17日	東電福島原発事故	政府、東電、マスコミ、原子力の専門家の言説を追跡することで事故の概要と社会への影響を整理する。またチェルノブイリ事故との比較などからフクシマの特徴を探る。
5	12月15日	核と放射能、水俣病と福島原発事故	放射線と遺伝子への影響などの基礎知識を学び、人類と核とは共存できるのかを考える。広島・長崎での被爆と福島原発事故の対比から歴史的な位置を探る。
6	1月19日	原子力と環境問題	福島原発事故を公害の原点・水俣病の視点から捉え直し、原子力発電を環境問題から考える。とくに、被害一加重の関係性を社会諸集団のあり方から追跡する。
7	2月16日	山口県上関町、祝島	上関町の30年。原発立地地域の地域振興策と農漁村のあり方を事例に即して考える。
8	2月23日	エネルギー問題と私たちの暮らし	産業と生活に不可欠なエネルギーについて各国と日本の現状を整理する。また、再生エネルギー新エネルギーについて考える。さらに3・11以降の暮らしのありかたについて討論する。
9	3月15日	総合討論	サロンの開催で明らかになった論点について整理し討論を深め「成果物」としてまとめる。

## 補足

1. 毎月第3木曜日に開催します。2012年2月のみ第4木曜日にも開きます。
2. 19:00~20:30 の1時間半のうち、冒頭そのときのトピックについて参加者で語り合います。前半は話題提供者からの問題提起、後半は参加者間の討論を基本とします。レジュメと動画の準備を話題提供者と運営責任者が行います。
3. 7回目で論点を整理し、8回目、9回目は討議に重点を置いた内容にする予定です。また分担を決めて成果発表の準備をはじめます。
4. 成果報告は、形にして、ポータルサイトに残します。

資料代は会場日を含め、300円を毎回納めていただきます。

駐車スペースがないので、できるだけ、自転車等でお出で下さい。